

令和4年度 教育事業
「幼小いっしょに！のとまり会」

1 趣旨

小学校に入学したばかりの子どもが、周りの児童と良好な人間関係を築けず、学校生活になじめずにいる状況を問題と捉え「小1プロブレム」と呼ぶ。本事業では、こうした問題へ対応できるよう、低年齢期における異年齢集団での共同生活体験を通して、互いに関わり合いながら自信を持って取り組む子を育てる。

2 日程

- (1) 期 日 【第1回】 令和4年10月2日（日） 日帰り
【第2回】 令和4年10月8日（土）～9日（日） 1泊2日
- (2) 参加者 【第1回】 年長児7名、小学校1・2年生18名、保護者28名
【第2回】 年長児7名、小学校1・2年生17名

(3) 研修内容

10月2日（日）【日帰り】	
9:00～受付 9:30～はじまりの会 アイスブレイク 9:40～フードハントゲーム（子ども） 10:00～トークセッション（保護者） 講師：小川耕平氏（富山福祉短期大学） 11:00～親子運動遊び（親子） 講師：小川耕平氏（富山福祉短期大学） 12:10～昼食 13:00～どら焼き作り（親子） 16:00～終わりの会 振り返り 振り返り後解散	
10月8日（土）【館内泊】	10月9日（日）
13:00～受付 13:30～はじまりの会 アイスブレイク 14:00～砂で遊ぼう 16:00～おとまりの準備 ベットメイキング、入浴準備 17:00～入浴 18:00～夕食 19:00～読み聞かせ 講師：絵本専門士 赤池氏・浜田氏 20:00 就寝	6:00 起床 7:20～朝食 8:30～森のパーティー準備① 森の洋服づくり・巣箱づくり 11:00～森のパーティー準備② カートンドックづくり 12:30～森のパーティー 13:30～終わりの会 振り返り

※ 当初はテント泊を予定していたが、コロナ感染症対策のため館内泊に変更した。

3 成果と課題

(1) 活動プログラムの実際

① フードハントゲーム【子どもプログラム】

異年齢の集団で関わり合いながら活動する力を高めるためのプログラムである。フードハントゲームは、施設建物の写真を手掛かりに、その場に行き、食材カードを探すゲームである。年長児・1年生・2年生を混ぜて3～4人でグループを編成し、午後の活動「どら焼き作り」に必要な食材カードを集めた。中には課題を解決しないと食材カードを得ることができない場所を設定した。活動を通して、どの方向に進むべきかみんなて考えたり、課題を解決するために協力したりして、初めて会った仲間との関わりを深めることができた。



【フードハントゲーム】

②トークセッション

親の子育て支援に関するプログラムである。

富山福祉短期大学教授小川耕平氏を講師に招き、「子育てのヒント」と題してトークセッションを実施した。事前に実施したアンケートをもとに日頃の子育ての悩みについて話を聞いた。多くの保護者が、幼児期・少年期における子どもの考え方や動き、月年齢の違いによる個人間の差など、同じ学年の子どもでも個人の差が大きいことを知った。「普段の接し方に反省するところがあった」「子どもとの向き合い方について学ぶことがたくさんあった」等、今後の子どもとの関わり方について考える感想が多かった。



【トークセッション】

③親子運動遊び

親子での関わりを深めるプログラムである。親子で簡単な運動遊びを体験した。両手をつないで足を踏み合う遊びや親が足を開閉するタイミングで子どもがジャンプする遊びを通して、親子が笑顔で声をあげながら楽しんでいる様子が見られた。保護者の感想では、「家に帰ってからもやってみたい」「普段からも運動を通してコミュニケーションを図りたい」という肯定的な意見が多かった。



【心ひとつにジャンプ】



【ふみふみゲーム】



【おしりにタッチ】

思いやりの心を育てるためのプログラムである。子どもたちが調理したどら焼きを親へプレゼントした。フードハントゲームで集めた食材を使い、仲間と協力して、道具の準備や調理をした。水と粉の割合を確認して混ぜること、正しい分量で焼くこと、親に日頃からの感謝の気持ちが伝わるようにデコレーションすること、これらの工程を守り、世界に一つしかない特別などら焼きに取り組んだ。

親は、子どもたちが調理する姿を見て「親の手を借りずに子どもたちだけで力を合わせて楽しんでいる姿はいい時間になった」と子どもの頑張りを目の前で見ることができた機会になった。



【生地焼き作業】



【デコレーション作業】



【親へのプレゼント】

第1回「のとり会」は親子体験や異年齢集団活動を通して、自立心・協同性・思いやりの心を育てるためのプログラムとして計画した。子どもは親のために仲間と協力して活動することができた。また、親は褒めるタイミングや内容など、子どもの成長に大きく関わる親の接し方を学ぶ機会になった。

⑤砂であそぼう

異年齢の集団で関わり合いながら活動する力を高めるためのプログラムである。第1回「のとり会」とは異なるグループで活動した。グループで思い描いた城や公園、テーマパークなどを製作した。砂を固める仕事、水を運ぶ仕事、穴を掘る仕事などグループで協力して作業することができた。互いに考えを伝え合い、一つのものを完成させた時の満面の笑みから、充実感・達成感を味わうことができた。



【砂であそぼう】

⑥おとり準備（ベットメイキング・入浴・食事・歯磨き）

「自分のことは自分でする」を合言葉に取り組んだ。ベットメイキングでは、自分のベットにシーツを敷き、枕カバーを被せた。一人ではできないときには、同室の仲間に助けを得ながら準備することができた。食事では、おかず、ごはん、みそ汁など自分の食事は自分で配膳した。食品ロスにならないように、分量を考えて盛り付けることができた。入浴では、着替えを準備したり、自分で体と頭を洗ったりした。就寝前の歯磨きも含めて、普段は親に頼っている身の回りのことを自分一人ですることができた。



【ベットメイキング】



【食事の配膳】



【歯磨き】

⑦読み聞かせ

絵本専門士を講師に招き、読み聞かせを実施した。心を落ち着かせた状態にすることで、しっかりと寝ることができるようにした。絵本専門士には、子どもたちの様子を見ながら「親子の愛が感じられる本」「勇気が出る本」「他文化理解の本」を読んでもらった。普段から本に親しんでいる子どもも、そうでない子どもも身を乗り出して聞き入り、絵本を楽しむことができた。



【読み聞かせ】

⑧森のパーティー準備①

ここでは、道具を安全に使って自分の想像したものを作る活動である。森のパーティー準備では、洋服づくりと巣箱づくりをした。採集した葉、ススキ、どんぐりなどをテープで張り付け、世界に一つしかないオリジナル洋服を作成した。また、小鳥をパーティーに招待しようという考えで、巣箱にも装飾を施し、パーティーの準備をした。



【自然物採集】



【洋服づくり】



【巣箱づくり】

⑨森のパーティー準備②

森のパーティー準備②では、迎えに来る家族にカートンドックを作った。パンに食材をつめ、アルミホイルで包んだ後に、牛乳パックに入れて火をつけた。手洗いや消毒、火の使い方など衛生面・安全面に気を付けながら作業した。



【カートンドック作り①】



【カートンドック作り②】

⑩森のパーティー

準備した衣装を身に着け入場し、家族にカートンドックを振舞った。食事中は、自分が頑張ったこと、できるようになったことなど一泊二日の出来事を話した。「自身に満ちた顔で入場してきた。」「たった一日なのに顔がキリッとした」など感想を持つ保護者がいた。

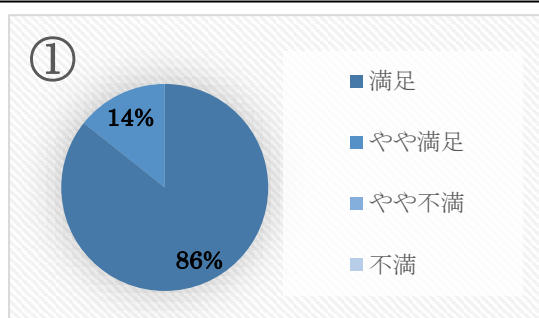


【森のパーティー】

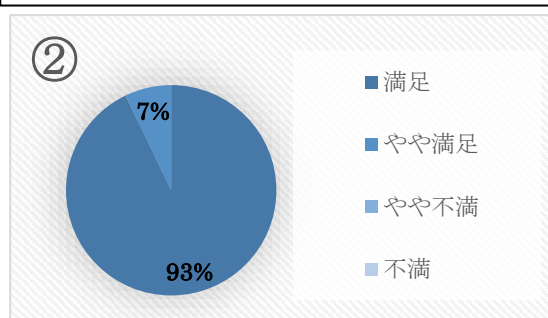
(2) アンケート結果について

事業評価を目的とし、参加者を対象に満足度調査アンケートを実施した。

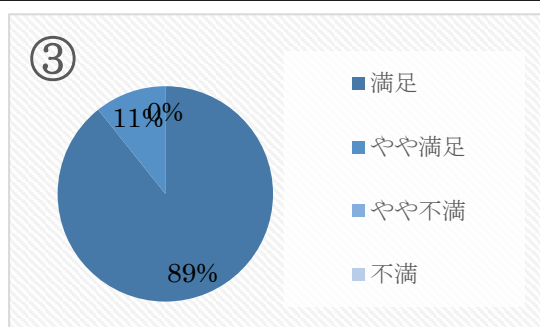
① 「のとまり会」全体を通して（総合的な満足度）



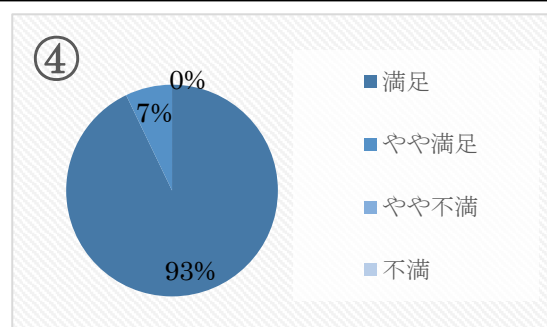
② プログラムの内容について。



③ 事業の運営について。



④ 指導者の助言について。



<参加者及び保護者の自由記述より（一部抜粋）>

① この事業について感想

- ・子どもが次回も参加したいと言っていた。
- ・同じグループの友達と仲良くしている姿を見て、参加させて良かった。
- ・親子ともに成長できる内容でした。

② 今回のプログラムを通しての感じたこと。

- ・6歳でこのような体験ができるのはとても貴重だと思います。
- ・他の年代の子どもと一緒に過ごせて、学ぶことが多々あった。
- ・自分のことは自分で頑張っている様子が見られた。
- ・子どもが一回り成長したように感じる。

(3) 成果と課題

① 成果

- ・事前の打合せてボランティアスタッフ、職員で共通理解し、事業の中でも意識を継続しながら活動することができた。また、各種プログラムの振り返りを実施し、どんな力が大切かを確認することで、次の活動に前向きに取り組もうとする姿が見られた。親向けのプログラムを実施したこともあり、子どもとの関わり方を考えるよい機会となった。
- ・最初にボランティアスタッフ、職員が調理の試作や事前のシュミレーションをすることで、活動の危険性を知り、対策をとることで安全な実施に繋がった。
- ・参加者にとっては、親と離れて生活で精神的にストレスを感じていた子もいたが、ボランティアスタッフや仲間が声をかけ合い、励まし合うことで全員が最後までやり抜き、達成感を感じることができた。「とても楽しかった」「もう一泊したい」など、肯定的な回答が多くあった。
- ・新型コロナウイルス感染症対策及び健康観察を定期的を実施し、体調不良者を出すことなく安全に事業を実施することができた。

③ 課題

- ・新型コロナウイルスの感染対策に留意し、特に調理活動では、手洗い・消毒を徹底した。また、ビニール手袋を使用して活動した。一方で手袋が子どもたちの作業を難しくすることもあった。
- ・プログラム実施前の準備時間（持ち物チェックやトイレ等）に想定以上の時間が掛かった。年長児及び小学1・2年生が時間や活動の見通しを持って取り組むことができる工夫を考えていく必要がある。